

国史跡

山野貝塚

— 縄文の景色を今に伝える、房総半島に現存する最南部の大型貝塚 —



山野貝塚航空写真（昭和54年国土地理院撮影）白く見える部分が貝塚



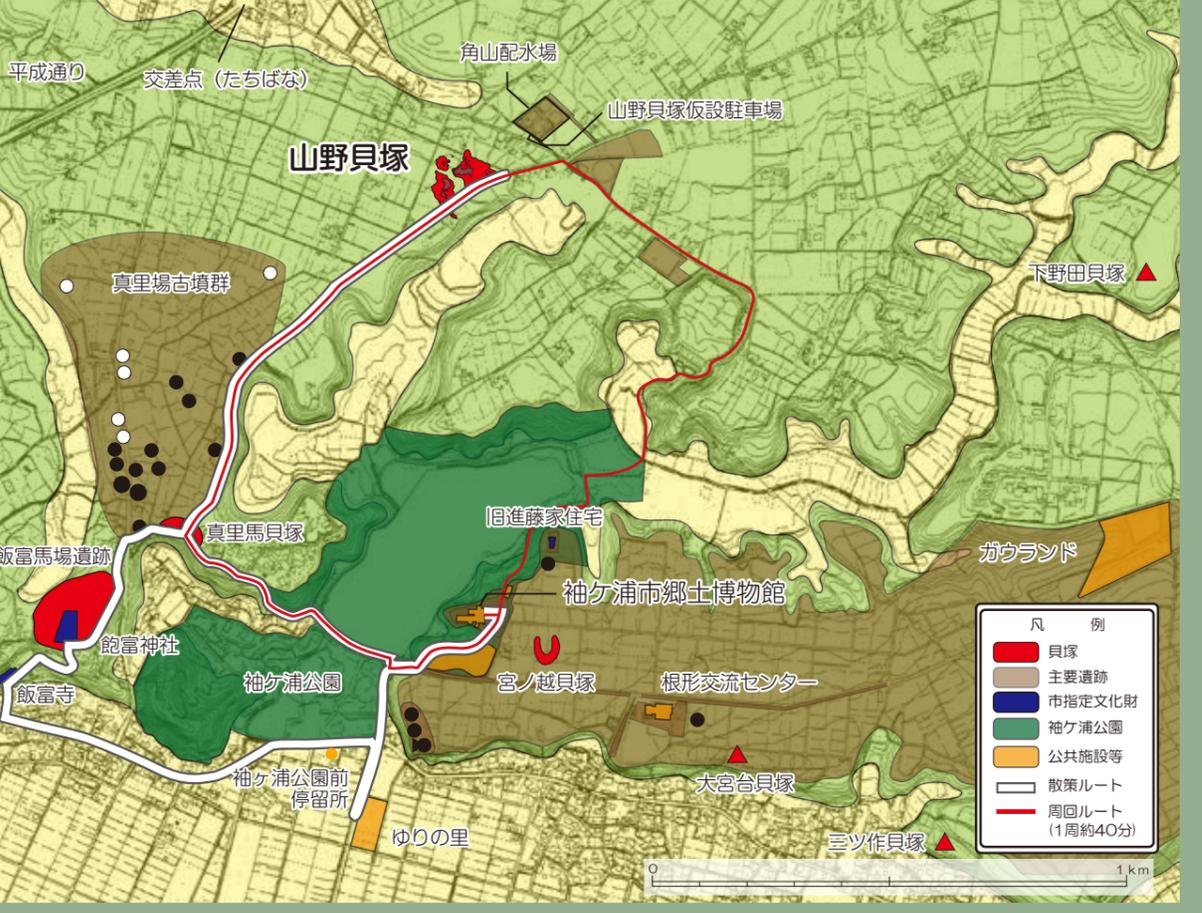
昭和48年発掘調査風景（現在の鉄塔部分の調査）

山野貝塚周辺を

散策してみよう！

散策ルート

- **袖ヶ浦市郷土博物館**
約4分 0.3km
袖ヶ浦の歴史をわかりやすく解説しています。博物館の屋外には江戸時代後期の民家である市指定文化財「旧進藤家住宅」が移築されています。
- **袖ヶ浦公園**
約6分 0.5km
市民の憩いの場です。季節ごとの花々や水鳥を楽しめます。
※山野貝塚以外の遺跡・貝塚は個人の所有地です。立ち入らず道路から見学して下さい。
- **真里場古墳群**
約10分 0.8km
20基の円墳で構成される古墳時代中～後期の群集墳です。ポコポコといくつかの高まりが見られます。
- **山野貝塚**
約20分 1.6km
貝塚の高まりと窪地の高低差を実感してください。一部に貝が散らばっています。
- **鮎富神社**
約3分 0.2km
平安時代に編さんされた『延喜式』に「鮎富神社」の名称で記載される神社です。本殿と東照宮は市指定文化財です。
- **飯富寺**
約14分 1.1km
市指定文化財「十一面千手観音菩薩立像」が祀られています。
- **ゆりの里**
約9分 0.7km
地元で採れた新鮮な農畜産物の直売所です。
- **袖ヶ浦市郷土博物館**



山野貝塚周辺には、市の歴史を伝える袖ヶ浦市郷土博物館や市民の憩いの場である袖ヶ浦公園、鮎富神社をはじめとする神社仏閣などの文化財が数多く所在しています。散策して、山野貝塚や袖ヶ浦の歴史を体感してみてください。



公共交通機関をご利用の方

JR袖ヶ浦駅下車→袖ヶ浦駅（南口）乗場から日東交通（株）のぞみ野・平岡線バスに乗り→袖ヶ浦公園前停留所下車（バス移動約12分）→袖ヶ浦公園前停留所から徒歩約8分（約600m）で袖ヶ浦市郷土博物館到着→袖ヶ浦市郷土博物館から徒歩約20分（約1.6km）で山野貝塚到着

車をご利用の方

- **山野貝塚仮設駐車場**（角山配水場隣接地）約5台分
※山野貝塚まで徒歩約3分（約200m）
- **袖ヶ浦市郷土博物館駐車場**約70台分※山野貝塚まで徒歩約20分（約1.6km）
 - ・東関東自動車道館山線 姉崎袖ヶ浦ICから約20分（約8.5km）
 - ・アクアライン連絡道袖ヶ浦ICから約15分（約6km）

縄文の景色を今に伝える

山野貝塚は縄文時代後・晩期（今から約4,500～2,500年前）の遺跡です。縄文時代以降、大きな土地の改変を受けていないため、縄文時代の状態を今に留めている非常に保存状態の良い遺跡です。昭和54年の航空写真を見ると馬のひづめのように広がる貝塚を確認できます（表紙上段写真）。また、実際に現地へ行くと、貝塚の高まりと貝塚に囲まれた窪地の高低差を実感できます。

これまでの発掘調査により、多くの遺物が発見されましたが、未調査の範囲にはいまだ多くの遺物が眠っています。

山野貝塚はまさに「縄文の景色を今に伝える」遺跡といえます。

背景写真：現在の山野貝塚

縄文時代年表 (着色部分が山野貝塚の時代)		遺跡のようす
時期区分		
約15,000年前	草創期	ムラはみつからない (土器と石器が見つかる)
約11,500年前	前期	小さなムラが点在
	中葉	
	後葉	
約7,000年前	前期	大きなムラが点在し、 貝塚ができる
	中葉	
	後葉	
約5,500年前	前期	ごく一部にだけ ムラができる
	中葉	
	後葉	
約4,500年前	前期	一部に大きなムラと 貝塚ができる
	中葉	
	後葉	
約3,300年前	前期	大きなムラと 貝塚がつづく
	中葉	
	後葉	
約2,500年前	前期	ムラはみつからない (土器と石器が見つかる)
	後葉	

貝塚を調べる

貝塚とは、文字どおり貝が塚状に高まった遺跡のことをいいます。貝塚からは、貝や土器、石器のほか、通常の遺跡では失われてしまう魚や動物の骨などの有機質の遺物が残ります。さらに魚のウロコのような微小な遺物が見つかることもあります。これらの遺物を細かく整理・分析することにより、縄文時代の生活や環境をよりよく知ることができます。



貝層を上から見た様子



貝層を接近して見た様子

貝塚の調べ方



① 貝層発掘調査

発掘現場で、大きめの貝や骨を採取するとともに、貝層を定量的に採取します。



② 貝層水洗

採取した資料をフルイ目の大きさが異なるフルイを使って水洗いし、フルイごとに資料を抽出します。



③ 分類同定

水洗した資料を分類し、現在の標本と見比べながら、貝や骨の種類や部位を特定します。



④ 計数・計測

同定した資料を数えて個体数を算出したり、計測し体長を推定したりします。

房総半島南部に現存する

東京湾沿岸には縄文時代の貝塚が日本で最も多く分布しており、特に東京湾東岸は世界的に見ても有数の貝塚密集地帯として知られています。

山野貝塚は東京湾東岸のほぼ中間部に所在し、房総半島に現存する直径100m以上の大型貝塚の中では最も南に位置します。

東京湾東岸の貝塚は、北側には数多く分布していますが、南側には分布が少ないため、山野貝塚は南側の貝塚を知るために不可欠な遺跡です。

このように山野貝塚は東京湾沿岸の縄文時代を考える上で重要な遺跡であり、縄文時代の景色を今に伝える遺跡として後世へ引き継いでいかなければなりません。



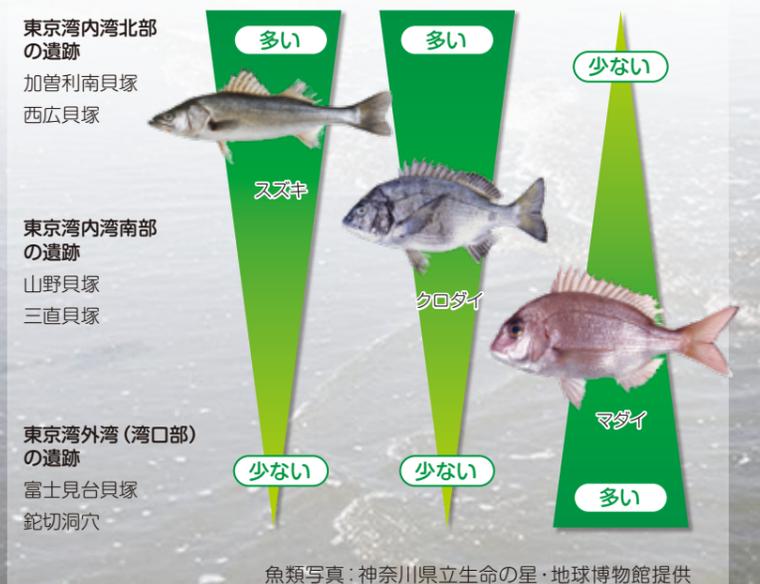
東京湾の南北を結ぶ

東京湾沿岸の貝塚から発見される魚の種類は、内湾周辺の遺跡では内湾域に生息するスズキやクロダイが主となるのに対し、外湾周辺の遺跡では外湾域に生息するマダイが主となり、縄文人が遺跡近くの海域で魚を獲得していたことを示しています。

内湾域に位置する山野貝塚からは、内湾域に生息するスズキやクロダイだけでなく、外湾域に生息するマダイも多く発見されています。このことは山野貝塚が東京湾東岸のほぼ中間部に立地する特徴を反映しており、内湾・外湾の両方に生息する魚を獲得していたことを示していると考えられます。

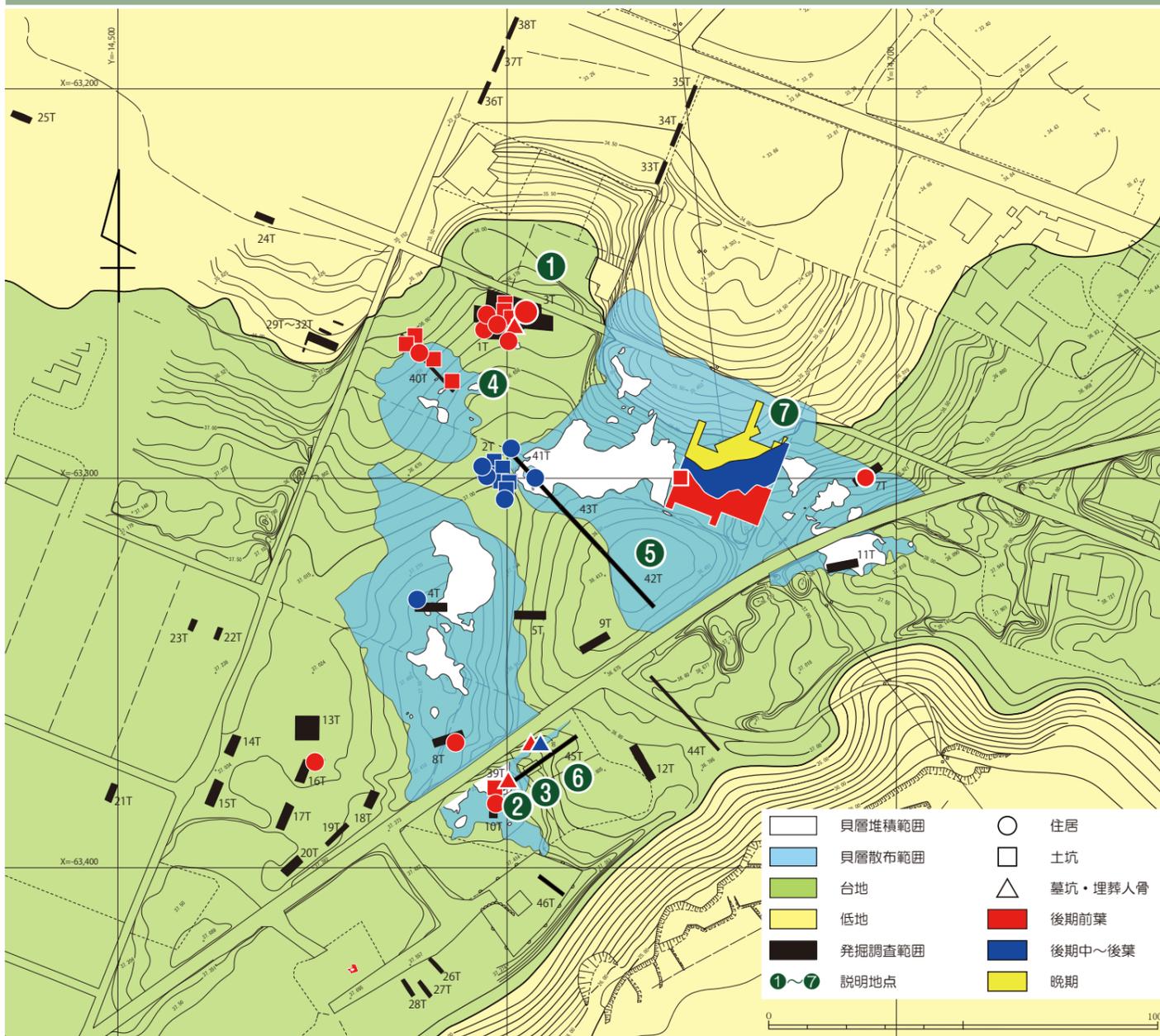
山野貝塚での魚の獲得方法は明らかになっていませんが、内湾と外湾の両方の魚を獲得するための技術を兼ね備えていたのかもしれませんが、縄文時代の漁撈を考えると山野貝塚は重要な遺跡といえます。

東京湾東岸の遺跡から発見される主な魚の種類



魚類写真：神奈川県立生命の星・地球博物館提供

山野貝塚 全体図



山野のムラ

山野貝塚は縄文時代後期から晩期にかけて連綿と営まれたムラです。貝塚は後期前葉から後葉までは継続的に作られますが、晩期になると作られなくなります。さらに、魚の骨の発見量が少なくなることから、晩期になると海産物の利用が低下したと考えられます。

貝塚は南北約110m、東西約140mの範囲に広がっており、貝塚の内側は窪地となっています。

ムラの配置をみると、後期前葉は人々が居住していた住居などは貝層よりも外側に作られるのに対し、時代が進むと、遺物の出土する位置が貝層の内側にある窪地側に集約していきます。

①柄鏡形住居

貝層外側のムラの北部で発見されました。後期前葉の住居で、円形の居住部に長方形の入口がついた柄鏡のような形をしています。



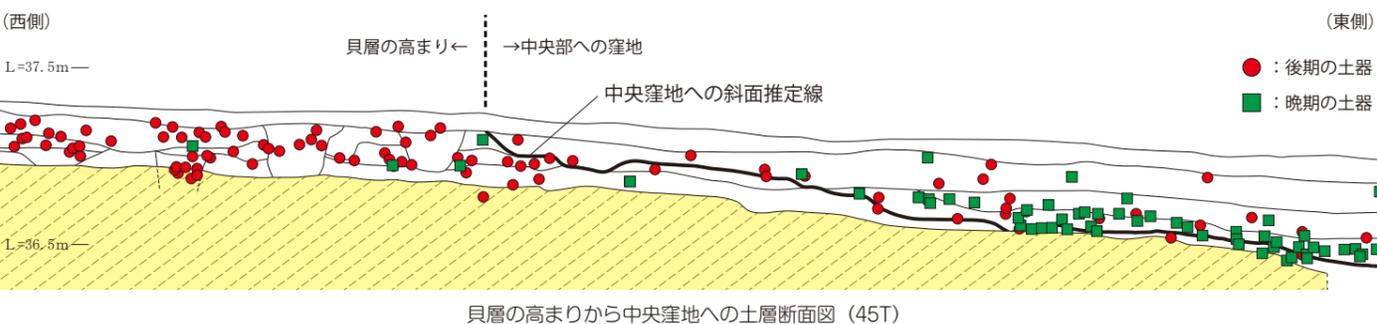
②お墓？

西側貝層の南部から後期前葉の土器が発見されました。この土器の底部は欠けており、別の土器が逆さまに被さっていたようです。土器内部の土を分析したところ、骨や歯に含まれるリン (P) やカルシウム (Ca) が多く含まれていることから、この土器は骨を埋葬した棺として利用された可能性があります。



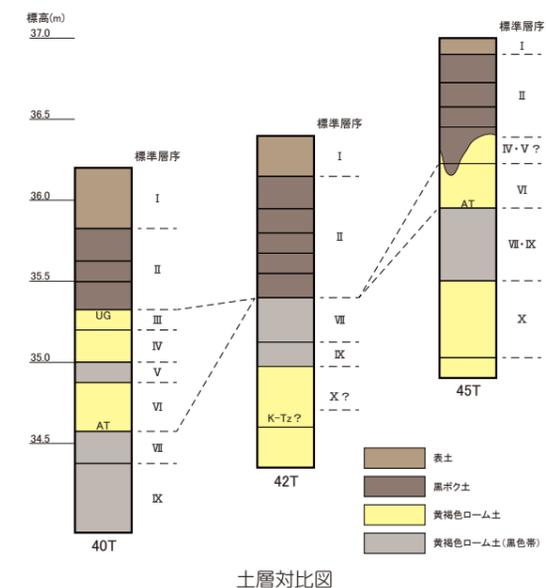
③貝層の高まりから中央窪地

ムラの中央部は、貝層の堆積が無く、周辺よりも窪んでいることから「中央窪地」と呼ばれています。発掘調査の結果、中央窪地は周辺より少なくとも約80cm低くなっていることがわかりました。また、貝層の高まり周辺部からは後期の住居や土器が多数見つかったのに対して、中央窪地部からは晩期の土器が見つかっており、後期から晩期へ時代が進むにつれて、生活域がムラの中心部に移り変わっていたものと思われる。



④⑤⑥掘り窪められた貝塚の中心地

貝層が堆積している地点(④地点(40T))と中央窪地(⑤地点(42T)、⑥地点(45T))の土の堆積状況を分析したところ、④地点からは、関東ローム層(立川ローム層)標準層序Ⅲ~Ⅸ層が見つかりましたが、⑤地点からはⅢ~Ⅵ層が見つからず、⑥地点においてもⅥ層上層の一部が消失していることがわかりました。消失した土は、⑦地点の埋立てに利用された可能性が高いです。山野貝塚で生活していた人々は何のためにこのようなことを行ったのでしょうか？



⑦縄文時代の埋立て

東側貝層の北東部の傾斜地からは、人為的に盛られたと考えられる、関東ローム層に関係すると思われる黄褐色土層が発見されました。晩期の土器が比較的多く見つかったことから、晩期に意図的に埋立てられた可能性があります。



黄褐色土層の断面

生活や祈りを伝える

山野貝塚からは、日常的に利用された道具だけでなく、祭祀など非日常的に利用された道具なども数多く発見されました。道具には土、石、貝、骨角歯牙など、様々なものが素材として利用されています。



お祭りに使われたと思われる注口土器の出土状況



土器



土偶・土版
上段 左：後期前葉の土偶、中：山形土偶、右：ミミズク土偶
下段 左：晩期の土偶（胸部）、右：土版



骨角歯牙製品
上段 刺突具（右端は鋸先）
下段 左端：錐、中2つ：かんざし、右端：垂飾

遠隔地と繋がる

山野貝塚からは、周辺の遺跡からは見つかることが少ない、様々な遺物が発見されました。

土器は模様の描き方や使われた粘土が東北や関西の土器と似ていること、石器と貝製品は素材の採取地が遠隔地にあることから、山野貝塚から遠く離れたところからもたらされたと考えられます。

これらの遺物の搬入経路や搬入方法は今後の研究課題となりますが、各地からモノが集まる山野貝塚は、東京湾東岸中間部における拠点となるムラであったことを物語っています。



近畿地方 晩期縄原式 類似土器

垂飾（左・中央：ツノガイ製、右：イモガイ製）

石棒・石剣・独鈷石（緑色岩・緑泥片岩類製）

東北地方 晩期大洞系土器

東北地方後期瘤付土器

石鏃（大洗のガラス質 黒色安山岩製）

近畿地方 後期元住吉山I式 類似土器

石鏃（長野県の黒曜石製）

貝輪（オオツタノ八製）

石鏃（神津島の黒曜石製）

土器の動き
石器の動き
貝製品の動き

自然の恵みを受ける

山野貝塚からは、魚類、貝類、鳥類、哺乳類などの動物遺体や、炭化した木の実が発見されました。これらは山野貝塚で生活していた人々が狩猟・採集を通じて、自然の恵みを上手に利用していたことを物語っています。

魚類

クロダイ、スズキ、マダイ、コチ、フグ、ニシン科が多く発見されています。東京湾東岸北部の遺跡よりマダイが多く、少数ですが、マグロ、カツオ、トビウオ科のような外洋性回遊魚類や、コショウダイ、カナガシラなどの岩礁域周辺に生息する魚も見つかっています。



山野貝塚から出土した魚骨



外洋性回遊魚類

岩礁域周辺魚類

魚類写真：神奈川県立生命の星・地球博物館提供

貝類

イボキサゴ、ハマグリが大部分を占めます。イボキサゴとは、東京湾東岸の多くの貝塚で最も多く発見される直径1~2cmの小さな巻貝で、食用以外にも利用されたと考えられています。



イボキサゴ(現生)

現在でも小櫃川河口域に広がる盤洲干潟で大量に採取できます。



山野貝塚から出土した主要な貝類

鳥類・哺乳類

鳥類ではカモ類、哺乳類ではシカとイノシシが多く見つかるほか、タヌキなどの小型の哺乳類も見つかっています。これらは肉を食用としたほか、骨、角、牙を道具の素材として利用しています。



マガモ

シカ

イノシシ

タヌキ

写真：千葉県立中央博物館所蔵

写真：千葉県立中央博物館所蔵

写真：千葉県立中央博物館所蔵

シカ頭骨出土状況

イノシシ頭骨出土状況